2022年4月21日
中高文化祭実行委員会

文化祭だより第1号
～方向性の改変についての提案～

1，従来の文化祭の方向性・テーマとは

文化祭の方向性とは、全校生徒が共有する、文化祭の方針を定める言葉です。
「自分たちがどのような文化祭にしたいか」、「自分たちのどのような側面を表現し、お客様に見ていただきたいのか」といったことを考えて、議論・決定します。
方向性をもとにして、後述するテーマ・各団体の企画・パンフレットとポスターのイラストを募集しています。
文化祭のテーマは、来場者の方々に、文化祭の方向性をわかりやすく伝えるためのスローガンです。例年は、パンフレットやポスターに記載されています。

《参考》昨年度の方向性
既存の枠組みにとらわれない、独創的な企画に挑戦する文化祭にしよう。
そのために、
・団体内の様々な意見を生かした企画作りを行うこと
・観客の目線に立ち、企画から得られること
・生徒主体で動くこと
を意識しよう。

昨年度のテーマ
千葉のガラパゴス

2，現在の方向性になった経緯

当初、方向性は、「テーマの方向性」として一単語であらわされ、テーマを単なる言葉遊びではなく、きちんと意味を持ったものにする目的で存在しました。ほかにも、明確に指針を決定し文化祭全体に統一感を出す役割や、生徒の文化祭における共通意識をつくる役割を担いました。

2011年、「テーマの方向性」を「革命」と決定したところ、「革命」「維新」という言葉が入った

テーマ案（「槐革命」「渋幕維新」など）ばかり提出されてしまい、テーマ案の広がりが見られませんでした。

そこで、方向性を単語ではなく短い文章で募集し、テーマ案に広がりを持たせようとしました。その後現在まで、文章形態での方向性案の募集を行っています。

3，現在の方向性について

方向性を文章にすることによって、方針の具体性が増し、明確化するとともに、毎年多種多様な案が寄せられるようになりました。

その反面、方針の違う方向性案が複数集まることによって、票がわかれやすくなり、一つの案に絞ることが難しくなりました。最近では、一定の票を集めた案をすべてつなげたものに決定することもあり、方向性が長文化する傾向にあります。

複数の要素を含んだ長文の方向性をテーマとして端的に表すことは難しく、近年、決定したテーマと、方向性との方針の違いが顕著になっています。また、方向性が長文化することは覚えにくさにつながり、方向性本来の「全校生徒が共有する、文化祭の方針を定める言葉」であるという項目に合致しづらくなっています。「方向性は不要なのではないか」という生徒からの意見も寄せられていました。

4，改変案

以上のことを踏まえ、文実執行部は、方向性の形態の変更を提案します。

今年度からの方向性を、従来の長い文章から**一単語の短い言葉**に変更します。

今まで通り、全校生徒から方向性案を募集したのち、これをもとに、校内装飾、企画内容、テーマ、ポスターデザインなどを作成します。（例：「和」「夢」「世界」など）
なお、**方向性を企画審査に適用することはありません。また、パンフレットに記載することもありません。さらに、必ずしもテーマにその言葉を入れる必要はありません。**あくまで企画を考える際の指標や、ヒントとして意識していただければと思っています。

例えば、方向性を「和」に決定した場合、
・校内装飾に和紙を使用する
・日本の「和」をモチーフにしたポスターやパンフレットのデザインを募集する。
・企画を日本語クイズにする
という風に活用することができます。
また、
・「調和」をイメージし、BGMにクラシック音楽を使用する
・「平和」学習についての展示企画にする
など、一つの言葉を複数の解釈でとらえることも可能です。
その場合のテーマは

・わっしょい
・いとをかし
・渋幕物語
など個性豊かなものを考えることができます。

このように、方向性を一単語にし、多数の解釈を可能にすることで、方向性をもとに募集するテーマ案の広がりを確保するとともに、本校の文化祭における多様性の尊重にもつながると考えています。

5，今後の流れ（予定）

方向性方式採用の承認決議…文実委員の皆さんに、方向性の方式の賛否を伺います。賛成多数の場合、今回提案した改編案が可決されます。
↓
方向性の募集…全校生徒から方向性案を募集します。
↓
方向性案の審議…文実委員の皆さんに、集まったすべての方向性案について議論していただきます。最終的に多くの票を集めた案を、全校投票の対象とします。
↓
全校投票…全校生徒の皆さんに、どの方向性が一番ふさわしいか投票をしていただきます。
↓
方向性決定…全校投票にて最も多くの票を集めた案を、今年度文化祭の方向性とします。